

R3 第一回 iRIC 研究会議事録（案）

文責：岩崎

日時：令和3年9月15日 15:00～

場所：Zoom

○会議の前に清水先生より挨拶があった

○iRIC 活動体制（今回の会議の趣旨）：清水先生

- ・ iRIC の体制が長年の活動でよくわからなくなってきた。
- ・ それを受けて、iRIC 研究会、iRIC-UC、RIC の三者体制を整えたが、それについても複雑になり役割が不明確になってきた。
- ・ それを受けて体制を整える点について、今回の会議をきっかけに議論をスタートしたい

○各三団体のこれまでの活動報告

■ iRIC 研究会：井上先生@広島大学

- ・ 新ソルバーの公開（清水先生モデル、EvaTrip Pro、3D ハザードマップ、Nays2DH 災害事例、Flood の更新、Nays2DH Bedrock）
- ・ iRIC online workshop 5 回
- ※RRI は公開していないのか？
 - 必要性は不明確なので、別途配布している

■ iRIC-UC：旭さん@Riverlink

- ・ 会員参画状況報告
- ・ HP 作成、管理業務
- ・ オープンソース、データ、事例集、マニュアル整備、ソフト規約整備などの仕掛け
- ・ iRIC workshop、雑談会、理事会などの開催

■ RIC：中田さん@RIC

- ・ 予算的な支援 業務をみずほ情報総研に発注
- ・ 2020 年の開発業務は以下（井上さん@みずほ）
 - －地理空間データのインポート、エクスポート機能の強化
 - －参照情報のインポート、エクスポート機能の強化
 - －マッピング機能の強化
- など

○今後の活動について

■ iRIC 研究会：岩崎@北大

- ・ 幹事が井上先生@広大から岩崎@北大に交代していた報告
- ・ iRIC 研究会はいったい何のためにあるのか不明瞭なので、それを今日の議論を踏まえてしっかり

させつつ活動していく

■ iRIC-UC : 旭さん@Riverlink

- ・ 研究会とのすみわけをしっかりと、活動する
- ・ HP の保守, 会員増加の仕組みを作るなど

■ RIC : 中田さん@RIC

- ・ 今年度も同様みずほ情報総研に業務発注. 今後も継続したい
- ・ 今年は iRIC 4.0 リリースに向けた必要な作業をしていく (井上さん@mizuhoh)

○ 人事変更に関する経緯について : 清水先生

- ・ これまでの活動から色々な問題が見えてきた
 - － 増加し続けるユーザーとそのニーズに対応できない
 - － スタッフの固定化, 高齢化, 人材不足
 - － 最新技術に対応できない
 - － iRIC-UC でのサポートには限界がある
 - － ソルバー乱立
 - － iRIC は北海道というイメージで, 新たな参入を阻害?
 - － 他の国際的なソフトに対する調査が必要では?
 - － 3つの組織の境界線を作ったために縦割りになってしまった
 - － 物事の決定と判断を誰がどうしているのか不明確
- ・ そのほか出された意見として,
 - － 活動を活発化させるには, 地域ごとに核となる方が動ける仕組みができれば, ユーザーのニーズが拾えるのでは
 - － iRIC に参画するメリットは何なのか?
 - － 企業としては, 例えば行政への講習会を受注するなどできる仕組みがあるとよい?
 - － iRIC を使っている人でも北海道にかかわっていない人には, やはり参加しづらい雰囲気があるので, そういう人とのかかわりを増やしたい
 - － 研究者がかかわるモチベーションを作る
 - － 企業から参加している場合, 仕事として使うことがメリットになるが, ボランティアで動くには限界がある.
 - － 学会としての活動になればやりやすいのでは?
 - － 基礎水理部会や環境水理部会の活動として位置づける. 一時期, 拒否反応があったが, それも昔よりは落ち着いており, 動きやすいのでは.
 - － iRIC-UC の会員を増やすという意味では, 事例発表会のようなものを作って, 発表した人を勧誘しては (表に出ていなくても, 業務で使っている人がいる)
 - － 講習会などの講師依頼をすれば, やってくれる人はいると思うが, どの部分が人材不足なのか?

- 技術的な部分？（井上さん@みずほが行っているようなところ？）
- －iRIC 研究会は何をやる団体なのか？全く明確ではない。iRIC を推進することもあるが、他にも目的はあるはず（iRIC=ソフトではないので）
- －研究会には、これまで通り全体の活動方針を決めるという役割は持たせるとよいのでは。
- －誰でも参加できるのは研究会だけなので、そういうところは大事にする
- －講習会とセットの懇親会で、ニーズを集める役割があった（が今コロナでできていない）
- －v2 ぐらいまでは、企業側からもニーズが結構出ていたが、今はそうではない。これはなぜか？
 - 予算と人がいない中、意見を挙げづらい
 - ソフトの完成度が上がったため
 - 貢献していないのに意見を出しづらい。うしろめたさがある。

○iRIC 研究会の代表の交代について

- ・上記には長年の課題もあるし、最近出てきたものもある。
- ・この解決は新体制を中心に考えてはどうか
- ・iRIC 研究会の代表は竹林先生へ交代
- ・清水先生は顧問として研究会に所属
- ・幹事会を作る予定 → 幹事長を岩崎@北大が行う
- ・幹事募集 → 希望者は竹林先生まで。また、幹事については適宜依頼をする

参加者（確認できた分）：35名

清水先生，岩崎（北大），竹林先生（京大），旭さん，中森さん（Riverlink），近者さん，篠原さん（三井C），馬場さん（JICA），久加先生（富山県立大），蒲生さん（GIT），浜本さん（日本工営），井上さん（みずほ），前田さん，大石さん，川村さん，阿部さん，平松さん（寒地土研），井上先生（広島大学），沖さん（北電総合設計），河野さん（土研），鎌田さん，中田さん（RIC），魚波さん（水工技研），桑原さん（パソコン），向井さん，山崎さん，菊地さん，舛屋さん（ドーコン），松木さん（松木総合設計），濱木さん（開発公営社），藤田さん（北海道水工コンサルタント），鶴巻さん（北海道気象技術センター），木村先生（富山大学），氏家さん（エコー），赤堀先生（愛工大）